

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-122012

(P2014-122012A)

(43) 公開日 平成26年7月3日(2014.7.3)

(51) Int.Cl.

B60J 3/00 (2006.01)

F1

B60J 3/00

F

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2012-280413 (P2012-280413)
 (22) 出願日 平成24年12月24日 (2012.12.24)

(71) 出願人 390023917
 八千代工業株式会社
 埼玉県狭山市柏原393番地
 (74) 代理人 110001379
 特許業務法人 大島特許事務所
 (72) 発明者 山口 将己
 三重県四日市市上海老町東大沢1633-
 2 八千代工業株式会社四日市事業所内
 (72) 発明者 杉森 智
 三重県四日市市上海老町東大沢1633-
 2 八千代工業株式会社四日市事業所内

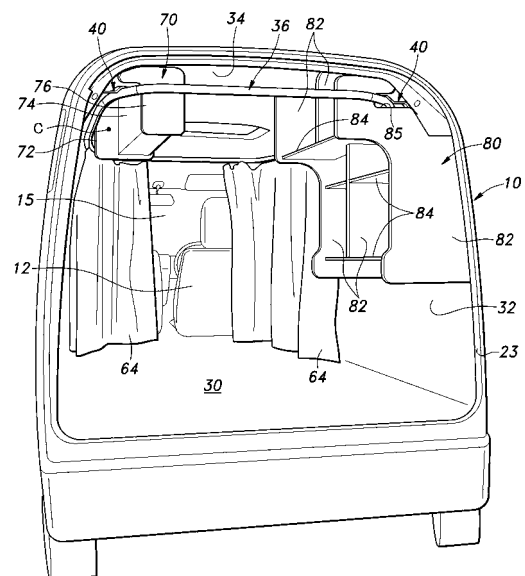
(54) 【発明の名称】 自動車の室内構造および車室用のカーテンレール

(57) 【要約】

【課題】カーテンによってキャンピング居住エリアのプライバシーの保護や遮光を的確に行うことができ、併せてカーテンレールが他の用途にも利用され得るようにし、更にはキャンピング居住エリアのスペースパフォーマンスを高くすること。

【解決手段】車室内の所定領域を全周に亘って外囲するように車室の側壁上部及び又は天井壁に沿って無端環状に延在するカーテンレール36を、カーテンレール36の長手方向に沿う複数個所にて側壁32の上部及び又は天井壁34に、同部分に対して間隔を置くように複数のブラケット40によって固定する。カーテンレール36は、全長に亘って筒状をなし、下部位置に全長に亘って延在する開口50を有する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

自動車の室内構造であって、

車室内の所定領域を全周に亘って外囲するように車室の側壁上部及び又は天井壁に沿って無端環状に延在するカーテンレールと、

前記カーテンレールの長手方向に沿う複数個所にて、前記カーテンレールを前記側壁上部及び又は天井壁に、同部分に対して間隔を置くように固定する複数のブラケットとを有し、

前記カーテンレールは、全長に亘って筒状をなし、下部位置に全長に亘って延在する開口を有することを特徴とする自動車の室内構造。

10

【請求項 2】

前記所定領域内において前記カーテンレールに近接して固定配置された第 1 の備品を更に有し、

前記第 1 の備品は、前記カーテンレールの下側に、前記カーテンレールからランナーを介して吊るされるカーテンよりも車室内側に位置する背面を有し、

前記第 1 の備品の前記背面と前記側壁上部との間に前記カーテンの通過を許す空間が設けられている請求項 1 に記載の自動車の室内構造。

【請求項 3】

前記所定領域内の配置される第 2 の備品を更に有し、前記第 2 の備品は上側を係脱可能な固定具によって前記カーテンレールに固定され、下側を係脱可能な固定具によって車室側壁に固定されている請求項 1 または 2 に記載の自動車の室内構造。

20

【請求項 4】

前記カーテンレールの一部に当該カーテンレールに対するランナーの出入のために前記開口の開口幅を拡大したランナーの出入口が形成されている請求項 1 から 3 の何れか一項に記載の自動車の室内構造。

【請求項 5】

前記カーテンレールが全長に亘って円筒状をなしている請求項 1 から 4 の何れか一項に記載の自動車の室内構造。

【請求項 6】

前記カーテンレールの前記開口が、前記カーテンレールの真下位置より前記所定領域の外側方向にオフセットした位置に設けられていることを特徴とする請求項 1 から 5 の何れか一項に記載の自動車の室内構造。

30

【請求項 7】

車室内の所定領域を全周に亘って外囲するように車室の側壁上部及び又は天井壁に沿って無端環状に延在し、全長に亘って筒状をなし、下部位置に全長に亘って延在する開口を有する車室内用のカーテンレール。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、自動車の室内構造および車室用のカーテンレールに関し、更に詳細にはキャンピングカー等として用いられる自動車の室内構造および車室用のカーテンレールに関する。

40

【背景技術】**【0002】**

自動車の側部窓をカーテンで覆うために、側部窓の上縁に沿ってカーテンレールが取り付けられた自動車知られている（例えば、特許文献 1、2）。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開平 10-86665 号公報

50

【特許文献2】特開2006-240607号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ワンボックスタイプの一般的な自動車の前部座席の後方にある車室空間をキャンピングの居住エリアとして用いることにより、一般的な自動車をキャンピングカーに転用することが考えられている。

【0005】

このような場合、キャンピング居住エリアのプライバシーの保護や遮光のために、側部窓ばかりでなく、テールゲートの後部窓もカーテンで覆い、更に、前部座席とその後方の車室空間との間をカーテンで区切るようにカーテンレールが車室内に設置されていることが望まれる。

【0006】

また、自動車のキャンピング居住エリアは、一般住居に比して狭いから、カーテンレールが他の用途にも利用されたり、カーテンレールがキャンピング居住エリアに設置されるギャレー（収納棚ユニット）等の備品の設置に干渉したり、逆にキャンピング居住エリアに設置された備品が窓をカーテンで覆うことを阻害したりすることがなく、キャンピング居住エリアのスペースパフォーマンスが高いことが望まれる。

【0007】

本発明が解決しようとする課題は、カーテンによってキャンピング居住エリアのプライバシーの保護や遮光を的確に行うことができ、併せてカーテンレールが他の用途にも利用され得るようにし、更にはキャンピング居住エリアのスペースパフォーマンスを高くすることである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明による自動車の室内構造は、車室内の所定領域（30）を実質的に全周に亘って外囲するように車室の側壁（32）上部及び又は天井壁（34）に沿って無端環状に延在するカーテンレール（36）と、前記カーテンレール（36）の長手方向に沿う複数個所にて、前記カーテンレール（36）を前記側壁（32）上部及び又は天井壁（34）に、同部分に対して間隔を置くように固定する複数のブラケット（40）とを有し、前記カーテンレール（36）は、全長に亘って筒状をなし、下部位置に全長に亘って延在する開口（50）を有する。

【0009】

この構成によれば、カーテンレール（36）が車室内の所定領域（30）を全周に亘って外囲するようにカーテンレール（36）が無端環状に延在することから、キャンピング居住エリア等の車室内の所定領域（30）の全方向に亘ってのプライバシー保護および遮光が、カーテンレール（36）に掛けられるカーテン（64）によって簡単且つ確実に行うことができる。

【0010】

しかも、カーテンレール（36）が無端環状であることにより、カーテンレール（36）全体の剛性が高いことと、カーテンレール（36）が車室側壁（32）の上部及び又は天井壁（34）に対して間隔を置いて設けられていることから、カーテンレール（36）をハンガ等の物品を吊り下げのためのハンガバーとして適切に利用することができる。

【0011】

本発明による自動車の室内構造は、好ましくは、前記所定領域（30）内において前記カーテンレール（36）に近接して固定配置された第1の備品（70）を更に有し、前記第1の備品（70）は、前記カーテンレール（36）の下側に、前記カーテンレール（36）からランナー（60）を介して吊り下げられるカーテン（64）よりも車室内側に位置する背面（72、74、76）を有し、前記第1の備品（70）の前記背面（72、74、76）と前記側壁（32）上部との間に前記カーテン（64）の通過を許す空間（C

10

20

30

40

50

）が設けられている。

【0012】

この構成によれば、カーテン（64）を第1の備品（70）により阻害されることなく開け閉めすることができ、利便性が向上する。

【0013】

本発明による自動車の室内構造は、好ましくは、前記所定領域（30）内の配置される第2の備品（80）を更に有し、前記第2の備品は上側を係脱可能な固定具（86）によって前記カーテンレール（36）に固定され、下側を係脱可能な固定具（92）によって車室側壁（32）に固定されている。

【0014】

この構成によれば、第2の備品（80）の取り付けのためにカーテンレール（36）が有効に利用されると同時にカーテンレール（36）が第2の備品（80）の取り付けを阻害することがなく、第2の備品（80）の取り付けのための構造が簡単になると共に省スペースが図られる。しかも、第2の備品（80）が取り外し可能であることにより、第2の備品（80）の取り外しによって室内を広く使うこともできる。

【0015】

本発明による自動車の室内構造は、好ましくは、前記カーテンレール（36）の一部に当該カーテンレール（36）に対するランナー（60）の出入のために前記開口（50）の開口幅を拡大したランナー（60）の出入口（54）が形成されている。

【0016】

この構成によれば、カーテンレール（36）が無端環状であっても、出入口（54）においてランナー（60）をカーテンレール（36）に取り付けることができる。

【0017】

本発明による自動車の室内構造は、好ましくは、前記カーテンレール（36）が全長に亘って円筒状をなしている。

【0018】

この構成によれば、カーテンレール（36）が円筒状であることにより、カーテンレール（36）に吊るすハンガが衣服を掛けるハンガの場合、カーテンレール（36）のハンガバーとしての使い勝手がよく、カーテンレール（36）のハンガバーとしての使用の違和感も軽減される。

【0019】

本発明による自動車の室内構造は、好ましくは、前記カーテンレール（36）の前記開口（50）が、前記カーテンレール（36）の真下位置より前記所定領域（30）の外側方向にオフセットした位置に設けられている。

【0020】

この構成によれば、カーテンレール（36）のやや外側寄りの下方部分からカーテン（64）が垂下することとなり、カーテン（64）の開閉に干渉することなく、より一層好適に物品をカーテンレール（36）から吊るしたり、或いは取り付けたりすることができる。

【0021】

本発明による車室内用のテンレール（36）は、車室内の所定領域（30）を全周に亘って外囲するように車室の側壁（32）上部及び又は天井壁（34）に沿って無端環状に延在し、全長に亘って筒状をなし、下部位置に全長に亘って延在する開口（50）を有する。

【0022】

この構成によれば、カーテンレール（36）が車室内の所定領域（30）を全周に亘って外囲するようにカーテンレール（36）が無端環状に延在することから、キャンピング居住エリア等の車室内の所定領域（30）の全方向に亘ってのプライバシー保護および遮光が、カーテンレール（36）に掛けられるカーテン（64）によって簡単且つ確実に行うことができる。

10

20

30

40

50

【0023】

しかも、カーテンレール（36）が無端環状であることにより、カーテンレール（36）全体の剛性が高いことから、カーテンレール（36）をハンガ等の物品を吊り下げるためのハンガバーとして適切に利用することができる。

【発明の効果】

【0024】

本発明による自動車の室内構造によれば、カーテンレールが車室内の所定領域を全周に亘って外圍するようにカーテンレールが無端環状に延在することから、キャンピング居住エリア等の車室内の所定領域の全方向に亘ってのプライバシー保護、遮光が、カーテンレールに掛けられるカーテンによって簡単且つ確実に行うことができる。

10

【0025】

しかも、カーテンレールが無端環状であることによりカーテンレール全体の剛性が高いことと、カーテンレールが車室側壁の上部及び又は天井壁に対して間隔を置いて設けられていることから、カーテンレールをハンガ等の物品を吊るすためのハンガバーとして適切に利用することができる。特に、カーテンレールが円筒状であることにより、カーテンレールに吊るすハンガが衣服を掛けるハンガの場合、カーテンレールのハンガバーとしての使い勝手がよく、カーテンレールのハンガバーとしての使用の違和感も軽減される。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図1】本発明による室内構造を適用された自動車の一実施形態を示す車体後方より見た斜視図（テールゲートを取り外して示す斜視図）。

20

【図2】本実施形態による室内構造のカーテンレールと収納棚ユニットとの配置を示す平面図。

【図3】本実施形態による室内構造のカーテンレールの拡大断面図。

【図4】本実施形態による室内構造のカーテンレールのランナー投入部を下から見上げて見る斜視図。

【図5】本実施形態による室内構造の収納棚ユニット配置部の正面図。

【図6】本実施形態による室内構造の収納棚ユニットの上側固定部の斜視図。

【図7】本実施形態による室内構造の収納棚ユニットの下側固定部の斜視図。

【図8】本発明による室内構造に用いられるカーテンレールの他の実施形態を示す拡大断面図。

30

【発明を実施するための形態】

【0027】

以下に、本発明による自動車の室内構造の一つの実施形態を、図1～図7を参照して説明する。

【0028】

本実施形態の室内構造が適用される自動車は、ハッチバックタイプのワンボックスカーである。ワンボックスカーは、図1、図2に示されているように、箱形の車体10と、車体10内（車室内）の前部に配置された前部座席（運転席と助手席）12と、前部座席12の後方の車体10内に配置された折りたたみ可能な後部座席（図示省略）と、後部座席の後方の車体10内に設けられたラゲッジスペース部（荷室部）14と、前部座席12の前方に設けられた前部窓（フロントシールドガラス）15と、車体10の側部前側に設けられた窓付きの左右のフロントサイドドア16と、車体10の側部後側に設けられた窓付きの左右のリアサイドドア18と、リアサイドドア18よりも後方位置で、ラゲッジスペース部14の左右両側部分の車体10に設けられた側部窓20と、車体10の後部に設けられた跳ね上げ式の窓付きのテールゲート22とを有する。テールゲート22は、車体10の後部開口23を開閉するものである。

40

【0029】

このワンボックスカーは、図示されていない後部座席が折りたたまれることにより、前部座席12よりも後方の車室空間が、車室内の所定領域として、ラゲッジスペース部14

50

を含むフラットフロアによる一つのキャンピング居住エリア 30 になる。キャンピング居住エリア 30 に対する人の出入りおよび荷物の出し入れは、リアサイドドア 18 の開口（図示省略）と後部開口 23 とによって行われる。

【0030】

車室内の上部にはキャンピング居住エリア 30 の全周に亘って外囲するように、車室の側壁 32（図 3 参照）の上部及び天井壁 34（図 3 参照）に沿って、且つこれらに近接して無端環状に延在するカーテンレール 36 が取り付けられている。カーテンレール 36 は全体を円環状横断面のアルミニウム合金やステンレス鋼等の金属製の丸パイプによって構成されて全長に亘って円筒状をなして、前部座席 12 の後側近傍を車幅方向に延在する前部直管 36 A と、テールゲート 22 の前側近傍を車幅方向に延在する後部直管 36 B と、車内右側を車体前後方向に延在する右部直管 36 C と、車内左側を車体前後方向に延在する左部直管 36 D と、前部直管 36 A の右端部と右部直管 36 C の前端部とを接続する 1/4 円弧による前右曲管 36 E と、前部直管 36 A の左端部と左部直管 36 D の前端部とを接続する 1/4 円弧による前左曲管 36 F と、後部直管 36 B の右端部と右部直管 36 C の後端部とを接続する 1/4 円弧による後右曲管 36 G と、後部直管 36 B の左端部と左部直管 36 D の後端部とを接続する 1/4 円弧による後左曲管 36 H との溶接組立体によって略四角形状の無端環状をなしている。

10

【0031】

カーテンレール 36 は、右側と左側の各々の車体前後方向の 4 箇所、合計 8 箇所を、つまりカーテンレール 36 の長手方向に沿う複数個所をブラケット 40 によって側壁 32 の上部に取り付けられている。

20

【0032】

次に、ブラケット 40 によるカーテンレール 36 の取付構造について、図 3 を参照して詳細に説明する。ブラケット 40 は、金属板のプレス成形品あるいは樹脂成形品であり、一端にあってカーテンレール 36 の上側外周半分に係合する半円形湾曲部 40 A と、他端にあって側壁 32 に対する固定のための平片部 40 B と、半円形湾曲部 40 A と平片部 40 B との間においてカーテンレール 36 を側壁 32 の上部及び天井壁 34 より間隔 A、B だけ離して配置するために折曲された折曲中間部 40 C とを一体に有する。

【0033】

半円形湾曲部 40 A はポップリベットと言われているブラインドリベット 42 によってカーテンレール 36 の上部に固定されている。平片部 40 B は平片部 40 B に貫通形成されたボルト通し孔 40 D に通された取付ボルト 44 が車体側部メンバ 46 に固定されたナット 48 にねじ係合することにより、側壁 32 の上部に固定されている。これにより、カーテンレール 36 は、側壁 32 の上部及び天井壁 34 に対して車室内側に間隔 A、B を置いて、且つ水平に、キャンピング居住エリア 30 の上部を取り囲むように、側壁 32 の上部に取り付けられている。

30

【0034】

カーテンレール 36 の下部には、カーテンレール 36 の全長に亘って延在する所定幅（カーテンレール 36 の円周方向の幅）の開口 50 が形成されている。開口 50 は、カーテンレール 36 を一周ぐると、カーテンレール 36 と同様に、無端環状に延在している。

40

【0035】

カーテンレール 36 の一箇所には、図 4 に示されているように、開口 50 の開口幅をカーテンレール 36 の円周方向に拡大した四角形状のランナー出入口 54 が形成されている。ランナー出入口 54 は、開口 50 の両縁部を四角形状に拡大したものであって、ランナー 60 のローラ配置部 60 A（図 3 参照）をカーテンレール 36 の内外に通過可能にするものであり、ランナー 60 のローラ配置部 60 A をカーテンレール 36 に対して出し入れすることに用いられる。

【0036】

カーテンレール 36 には、ランナー出入口 54 部分のランナー 60 の通過を許すように、開口 50 を残してランナー出入口 54 を塞ぐプラグ 56 が取り付けられている。プラグ

50

56は、ランナー出入口54の補形をなしてランナー出入口54に嵌合する嵌合部56Aと、嵌合部56Aの外端側に一体形成されてカーテンレール36の外面に接合するフランジ部56Bとを有し、ランナー出入口54に対する嵌め合いあるいは接着剤によってカーテンレール36に固定される。

【0037】

嵌合部56Aの厚さはランナー出入口54におけるカーテンレール36の肉厚に等しいので、ランナー出入口54に嵌められた嵌合部56Aは、ランナー出入口54において他の部分と面一に連続するローラ走行面をカーテンレール36内に構成する。これにより、ランナー出入口54においてもランナー60が段差なく滑らかに走行する。

【0038】

カーテンレール36は、先ず前部直管36Aと後部直管36Bと右部直管36Cと左部直管36Dと前右曲管36Eと前左曲管36Fと後右曲管36Gと後左曲管36Hとの合計8個の丸パイプ材を溶接によって互いに接合して略四角形状の無端環状体を製作し、その後、無端環状体をワーク保持治具にセットし、NC制御による切削加工によって開口50とランナー出入口54とを作成することによって製造することができる。

【0039】

この製造工程によれば、無端環状体を製作した後に開口50を無端環状に削り出すので、カーテンレール36の全長に亘って延在する開口50の無端連続性の精度がよく、丸パイプ材の接合部において開口50に不要な筋違いが生じることを完全に排除できる。

【0040】

カーテンレール36には複数のランナー（スライダ）60が取り付けられている。ランナー60は、カーテンレール36内に位置するローラ配置部60Aと、ローラ配置部60Aより下方にあって開口50を通過してカーテンレール36よりも下方に突出するカーテン吊り下げ部60Bとを一体に有する。ローラ配置部60Aの両側にはローラ60Cが回転自在に取り付けられている。両ローラ60Cがカーテンレール36内において開口50の両側縁部上を転動することにより、ランナー60が開口50に案内されてカーテンレール36の延在方向に走行移動する。カーテン吊り下げ部60Bには、カーテンレール36外において開口50の両側縁部に小さい間隔をおいて対向する上下方向のストッパ部60Dが突出形成されていると共に、カーテンフック62を掛けられる係合孔60Eが貫通形成されている。

【0041】

カーテンフック62には布製等のカーテン64の上部が取り付けられている。カーテン64は、カーテンフック62、ランナー60を介してカーテンレール36より吊り下げられ、ランナー60がカーテンレール36の延在方向に沿って走行移動することにより、カーテンレール36の延在方向に沿って開け閉めされる。

【0042】

カーテン64は、カーテンレール36の延在方向の全域に亘る長さを有するものであり、カーテン64の枚数はカーテン64の長さによって決まる。カーテン64の枚数は、カーテン64の長さがカーテンレール36の全長に相当するものであれば1枚でよく、カーテン64の長さがカーテンレール36の全長の1/2に相当するものであれば2枚でよく、カーテン64の長さがカーテンレール36の全長の1/3に相当するものであれば3枚でよい。図1はカーテンレール36に2枚のカーテン64を吊り下げた実施形態を示している。

【0043】

カーテンレール36は、キャンピング居住エリア30を全周に亘って外囲するように無端環状に延在するから、このカーテンレール36に吊り下げられたカーテン64によってキャンピング居住エリア30の前後左右の全体を囲むことができる。これにより、キャンピング居住エリア30の全方向に亘ってのプライバシー保護および遮光が、無端環状に連続する一つのカーテンレール36に吊り下げられたカーテン64の簡単な開け閉め操作によって確実に行われるようになる。

10

20

30

40

50

【0044】

カーテンレール36は無端環状であるから全体の剛性が高い。このことと、カーテンレール36がブラケット40によって側壁32の上部及び天井壁34に対して車室内側に間隔A、Bを置いて、且つ水平に設けられていることから、カーテンレール36を、ハンガ等の物品を吊るすためのハンガバーや、キャンピング居住エリア30に配備する各種備品を車体10に取り付けるための取付バーとして適切に利用することができる。

【0045】

特に、カーテンレール36が円筒状であることにより、カーテンレール36に吊るすハンガが衣服を掛けるハンガの場合、カーテンレール36のハンガバーとしての使い勝手がよく、カーテンレール36のハンガバーとしての使用の違和感も軽減される。

10

【0046】

キャンピング居住エリア30の左側の天井部には、図1、図2に示されているように、頭上収納棚ユニット(第1の備品)70がカーテンレール36に近接して固定配置されている。頭上収納棚ユニット70は、天井壁34やカーテンレール36の側部に固定されており、カーテンレール36の下側に、カーテンレール36からランナー60を介して吊り下げられたカーテン64よりも車室内側に位置する背面72、74、76を有している。これにより、頭上収納棚ユニット70の背面72、74、76と側壁32の上部との間にカーテン64の通過を自由に許す空間Cが設けられる。

【0047】

この構造により、頭上収納棚ユニット70の配置部の背面側をカーテン64が頭上収納棚ユニット70により阻害されることなく通ることができ、頭上収納棚ユニット70の配置部の背面側、本実施形態では左側の側部窓20をカーテン64によって覆うことができる。このように、キャンピング居住エリア30に設置された頭上収納棚ユニット70に阻害されることなくカーテン64を開け閉めすることができ、キャンピング居住エリア30の利便性が向上する。

20

【0048】

キャンピング居住エリア30の右側には、図1、図2に示されているように、側壁収納棚ユニット(第2の備品)80がカーテンレール36に近接して着脱可能に設置されている。側壁収納棚ユニット80は、複数の垂直な端板82と複数の水平な棚板84とを含むものである。

30

【0049】

図5、図6に示されているように、カーテンレール36が車体10の右側を前後方向に延在する部分の車体前後方向に離れた2箇所の車内側の側面にはパッチン錠と呼ばれるドロラッチ金具(固定具)86のフック部材86Aが固定されている。側壁収納棚ユニット80の車体前後方向に離れた2枚の端板82の上部にはフック部材86Aに係脱可能に係合するドロラッチ金具86のラッチ部材86Bが取り付けられている。

【0050】

これにより、側壁収納棚ユニット80は、上部の2箇所をドロラッチ金具86によってワンタッチで工具なしで、カーテンレール36に係脱可能に固定される。

【0051】

図5、図7に示されているように、側壁収納棚ユニット80の最下段の棚板84の背面部には車体前後方向に離れた2箇所に取付片88が取り付けられている。取付片88は、棚板84より垂下しており、ボルト通し孔88Aを貫通形成されている。ボルト通し孔88Aには締結ボルト(固定具)92の雄ねじ部92Aが貫通している。ボルト通し孔88Aに通された締結ボルト92は、雄ねじ部92Aが側壁32に予め配備されたナット部材90にねじ係合することにより、側壁収納棚ユニット80を側壁32に取り外し可能に固定する。締結ボルト92の頭部は小物吊り下げ用のフックを兼ねた手廻しハンドル部92Bになっている。

40

【0052】

これにより、側壁収納棚ユニット80は、下部の2箇所を締結ボルト92によって工具

50

なしで、側壁 32 に係脱可能に固定される。

【0053】

側壁収納棚ユニット 80 の上部はカーテンレール 36 に取り付けられるから、側壁収納棚ユニット 80 の取り付けのためにカーテンレール 36 が有効に利用され、それ故にカーテンレール 36 が側壁収納棚ユニット 80 の取り付けを阻害することがない。これにより、側壁収納棚ユニット 80 の取り付けのための構造が簡単になると共に省スペースが図られる。

【0054】

更に、端板 82 にカーテンレール 36 を避ける凹部 85（図 1 参照）を設けることにより、カーテンレール 36 に阻害されることなく、車室の側壁上部のスペースを効率的に利用して側壁収納棚ユニット 80 を配置することができる。

10

【0055】

側壁収納棚ユニット 80 は、工具を用いることなく簡単に取り外すことができるので、キャンピングカー以外の使用等において側壁収納棚ユニット 80 が不必要な場合には、側壁収納棚ユニット 80 を取り外すことによってラゲッジスペース部 14、キャンピング居住エリア 30 を広く使うことができる。

【0056】

側壁収納棚ユニット 80 が側部窓 20 を覆うような比較的大型のものであったり、窓以外の車室側壁の部分に配置されるものであったりしても、側壁収納棚ユニット 80 を避けるようにカーテン 64 を配置し、側壁収納棚ユニット 80 とカーテン 64 とが互いに協働して、キャンピング居住エリア 30 を実質的に全周に亘って覆うことができる。しかも、側壁収納棚ユニット 80 を取り外したときには、カーテン 64 によってキャンピング居住エリア 30 を実質的に全周に亘って覆うことができ、状況に応じてカーテン 64 を好適に且つフレキシブルに使用することができる。

20

【0057】

次に、本発明による自動車の室内構造のカーテン吊り下げ部 60B の他の実施形態を、図 8 を参照して説明する。なお、図 8 において、図 3 に対応する部分は、図 3 に付した符号と同一の符号を付けて、その説明を省略する。

【0058】

この実施形態では、カーテンレール 36 の開口 50 が、カーテンレール 36 の真下位置よりキャンピング居住エリア 30 外側方向にオフセットした位置に設けられている。このことに応じてランナー 60 はくの字形に折曲した形状になっており、ローラ配置部 60A は開口 50 のオフセットに応じて傾斜しているが、係合孔 60E の部分はカーテン 64 の鉛直な吊り下げのために垂直（鉛直）になっている。

30

【0059】

この構成によれば、開口 50 がカーテンレール 36 の真下位置にある場合に比してカーテンレール 36 のやや外側寄りの下方部分からカーテン 64 が垂下することとなり、カーテン 64 の開閉に干渉することなく、より一層好適に物品をカーテンレール 36 から吊り下げたり、或いは取り付けたりすることができる。

【0060】

以上、本発明を、その好適な実施形態について説明したが、当業者であれば容易に理解できるように、本発明はこのような実施形態により限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。

40

【0061】

たとえば、ブラケット 40 の一部あるいは全部が天井壁 34 に取り付けられていてもよい。また、ランナー出入口 54 はカーテンレール 36 の複数箇所に形成されていてもよい。

【0062】

また、上記実施形態に示した構成要素は必ずしも全てが必須なものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない限りにおいて適宜取捨選択することが可能である。

【符号の説明】

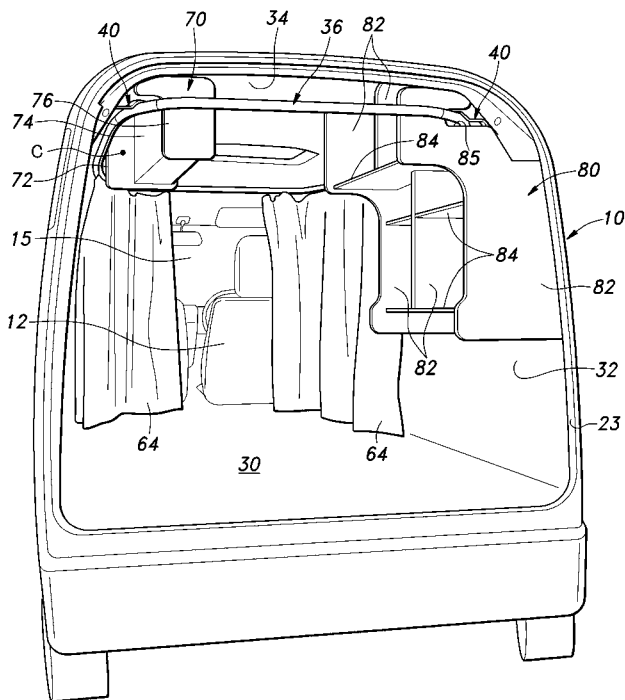
50

【 0 0 6 3 】

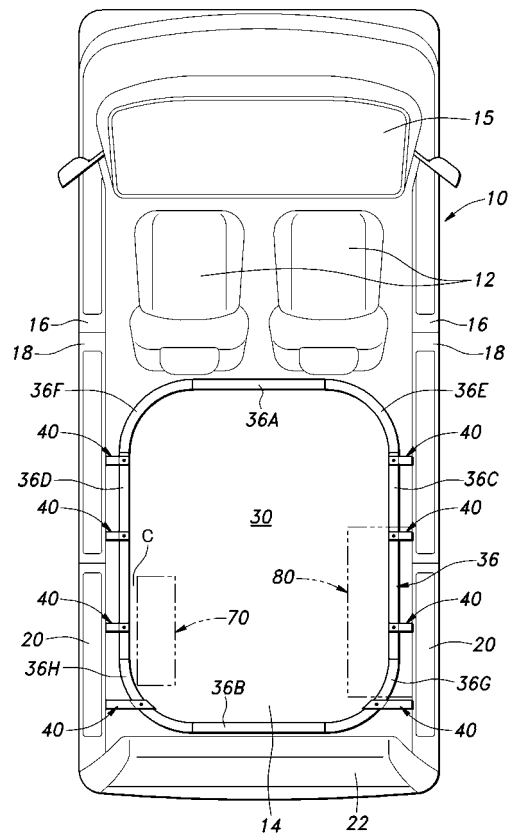
- 1 0 車体
- 1 2 前部座席
- 1 4 ラゲッジスペース部
- 3 0 キャンピング居住エリア（所定領域）
- 3 2 側壁
- 3 4 天井壁
- 3 6 カーテンレール
- 4 0 ブラケット
- 6 0 ランナー
- 6 4 カーテン
- 7 0 頭上収納棚ユニット（第 1 の備品）
- 7 2 背面
- 8 0 側壁収納棚ユニット（第 2 の備品）
- 8 5 凹部
- 8 6 ドローラッチ金具（固定具）
- 9 2 締結ボルト（固定具）

10

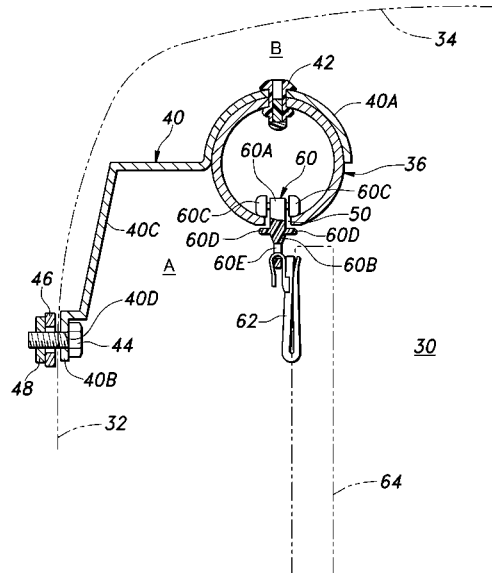
【 図 1 】



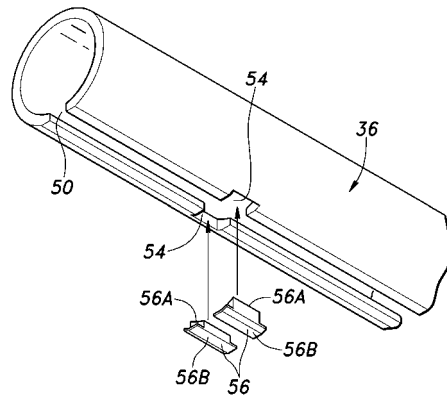
【 図 2 】



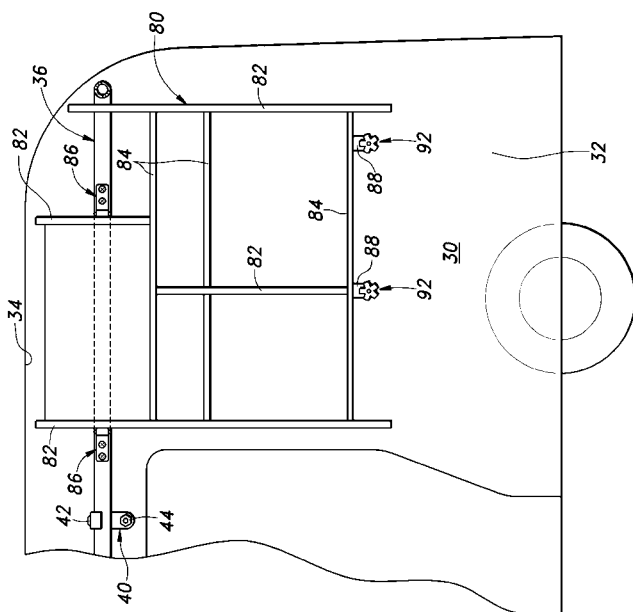
【図 3】



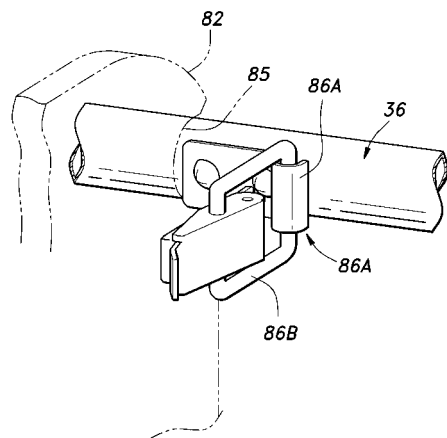
【図 4】



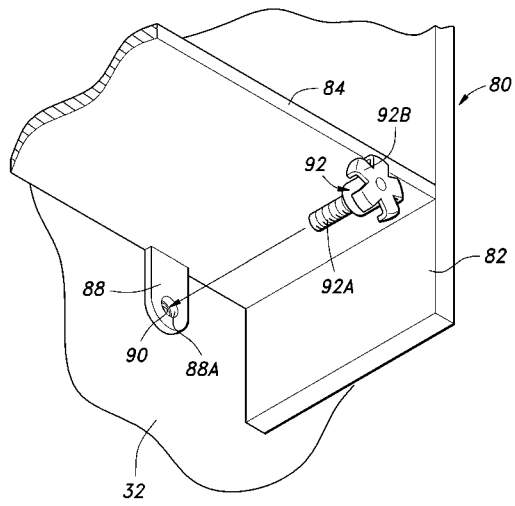
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

